

もしそうであったなら、彼らは民族的にイエス様を信じて救われることができたのです。ところが、それをさえぎったのがパリサイ人たちでした。

もちろん、十字架は絶対的に必要です。その十字架の後、神の御国は到来することができました。もちろん、神様はその時に御国が到来しないということをご存知でした。アダムとイブが罪を犯すのを分かりきっていたように。しかし、2000年前のユダヤ人には神の御国の到来のチャンスが与えられたことは絶対的に確かなのです。

そして、その同じ23章でイエス様はこの民族に対して預言しておられます。「ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。」マタイ23:37-38

「家が荒れ果てたままに残される」とは、あなたがたはこの場所から留守になりますよ、ということです。イエス様がこの預言をされた40年後にユダヤ人は国を失くし、神殿を失くし、全世界に流浪の旅に出て行きました。

再臨の条件

ところで、「祝福あれ、主の御名によってこられる方に」マタイ23:39 という言葉をあなたはいつ使いますか？ 賛美でそういうものもありますが、それ以外で使ったことはありませんか？ この言葉は、ユダヤ人がメシヤを迎える時しか使わない言葉です。イエス様がエルサレムにロバで入城した時、何人かの人が棕櫚の枝をもって「祝福あれ、主の御名によってこられる方に」と言ってイエス様を迎えました。その時、パリサイ人達が怒っていました。「あの言葉はメシヤに対してしか使わない言葉だ。あなたはメシヤではないのだから、その言葉を受けるのにふさわしくない。彼らを黙らせろ」と。このマタイ23章39節の言葉を分かりやすく言いますと、「パリサイ人達、ユダヤ人達。あなたがたに告げます。祝福あれ！ 主の御名によってこられる方に、とメシヤを迎える言葉で私を迎えるまで、再臨は絶対にありますよ！」となります。

私たちにはイエス様をいつも見ることができ、語る事ができるという祝福に与っていますが、ユダヤ人が再び主を見るのはご再臨の時なのです。なぜなら、神様はユダヤ人を民族的に扱われているからです。このことは決して忘れないで下さい。もし、あなたがこのことをしっかりと理解するなら、他の聖書箇所 の理解も深まります。彼らが民族的にイエス様をメシヤとして迎え、悔い改める時に再臨があります。

それでは、彼らが民族的に流浪の旅に出た時、サタンは何をしようとしたか？ サタンはユダヤ人がイエス様を迎えた時に自分が敗北することを知っています。ですから、まず始めに個人的なアブラハムの子孫であるクリスチャンに覆いをかぶせました。そして、ユダヤ人はキリスト殺しであり、神様に見捨てられ、神様に敵対する民族だという偽りを吹き込んだのです。これが2世紀から始まる神学に浸透していきました。そして、そのような民族を殺したら神様は喜んでくださる、というようなそそのかしがキリスト教圏で何度も起こりました。この民族を抹殺して御国を到来させまいとする企ては旧約聖書の時代からあります。エステル記がそれを記しています。ヒトラーは、敵である悪魔の側についたキリスト殺しを地球上から全滅することは、アーリア民族であるドイツ人が神様から受けた召しであると宣言しました。そして、ドイツ人は皆、選民意識を持って立ち上がってユダヤ人を抹殺しようとした。その勢いはヨーロッパの3分の2を覆うほどになりました。もちろん神様はそれをお止めになりました。聖書をきちんと読んでいれば、人はこのような間違いを犯さなかったと思いますが、彼らはクリスチャンではありません。これだけはしっかりと覚えていてください。本当にイエス様を愛していたクリスチャンは、この人たちが抹殺されようとしている時、ユ

ダヤ人をかくまったのです。ただ、残念なことにその数があまりにも少なかったのです。

ユダヤ人の違反と失敗がもたらす祝福

「では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。もし彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。ローマ11:11-12

彼らがつまずいたのは倒れるためではありません。異邦人に救いをもたらしてくださいました。「彼らの違反」とは、イエス・キリストを「悪霊につかれた者」と言った違反です。その違反が世界中に富をもたらし、福音を届けました。そして、「彼らの失敗」とは、アブラハムの子孫が民族的に救われるようにお膳立てが全部できていたにも関わらず、御国の扉を閉めてしまった失敗です。その失敗が異邦人の私達にアブラハムの子孫とさせるといふ富を得させました。これはただならぬ素晴らしい祝福です。神様と電話の線がつながっているのはアブラハムの子孫だけなのですから。

「彼らの完成は」という言葉は、民族的救いを表しています。もし、彼らがみな救われたのなら、「これ以上」どんなにかすばらしいことをもたらすことでしょう。「これ以上すばらしいこと」とは、再臨のことです。神の御国の到来です。もう一度、12 節を見て下さい。「もし」という言葉から始まります。「もし、彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼らの完成は、それ以上のどんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょう。」私たちは彼らの完成のために、今からがんばって働いていくべきだと思います。

「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれていますとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬度を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」ローマ11:25-27

イスラエルはみな救われるという約束があります。＜ローマ11:28-29＞私達のすでにいただいている祝福は変わることがありません。もし、ユダヤ人が悪い子であれば神様の気が変わる、というなら、私達に与えられている祝福においても気が変わると考えられます。しかし、ユダヤ人が良い子であろうと悪い子であろうと、決して約束を変えない神様は、私達のこの素晴らしい祝福もお変えになりません。

そして、世の終わりが近づくにつれて、このユダヤ人たちに大変なことが起こります。

「全地はこうなる。――主の御告げ。――その三分の二は断たれ、死に絶え、三分の一がそこに残る。わたしは、その三分の一を火の中に入れ、銀を練るように彼らを練り、金をためすように彼らをためす。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは「これはわたしの民。」と言い、彼らは「主は私の神。」と言う。ゼカリヤ13:8-9 はご再臨間際の出来事です。これはまだ成就していません。ユダヤ人の中には、ホロコーストの時にこれが成就したと言う人たちがいますが、このゼカリヤ書12章、13章、14章は全てエルサレム問題です。ホロコーストの時、彼らはエルサレムに全く関係ありませんでした。民族の悔い改めが＜ゼカリヤ12:9-10＞に書かれています。

ユダヤ人はキリスト殺しと言われてきました。私達も同様です。主は私達の罪のために十字架にかかってくださいました。全人類がイエス様を十字架にかけたのです。しかし、私たちは、イエス様を突き刺していません。彼らは自分達が突き刺した者を仰ぎ見るというふうに書いています。これは絶対的にユダヤ人のことなのです。

ユダヤ人の悔い改めの時

そして、「見よ、彼が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。」黙示録1:7

ユダヤ人は独り子を失ったように、初子を失ったように激しく泣いて悔い改めると言うのです。人間としてこれほど心痛むことはないという嘆きです。ユダヤ人の心には、神様に対して、祭司が血を携えて恐る恐る一年に一回だけ幕の中に入ってようやく御前に出るといふ怖れ多さがあります。

そのお方ご自身が自分達を救うために、いけにえとなって十字架にかかられた。そのような考えられない愛を示してくださったにもかかわらず、自分達の先祖は「この人はベルゼブル、悪霊のかしらの力でこんなことをしているのだ」と言った。その先祖の罪を知った時、彼らは着物を裂いて嘆くだけではなく、「主よ!!なんという罪を私の先祖が犯したのか！」と心も腹も裂けんばかりに激しく泣きます。先祖の咎を悔い改めて、その後自分達の罪を悔い改めます。

「エルサレムの平和の為に祈れ」とは？

最後に、「エルサレムの平和の為に祈れ。お前を愛するものが栄えるように。」とはどういうことですか。ユダヤ人のラビいわく、エルサレムはヘブル語でイェルシュライームと発音します。語尾にイームがつくので、これは複数形を表します。おそらく世界中の都市の中で複数形の名前がついているのはエルサレムだけでしょう。イスラエルにエルサレムという町がありますが、もう一つどこかにあるから複数形なのです。どこでしょう。天です。天にエルサレムがあります。天のエルサレムから平和の君が地上のエルサレムに来られる時、ご再臨です。天のエルサレムと地のエルサレムが平和になって一つになる時、神の御国の到来です。ですから、「エルサレムの平和の為に祈れ」というのは、ご再臨に集中するわけです。ユダヤ民族と呼ばれているアブラハムの子孫が、民族的にイエス様をメシヤとしてお迎えする時、この天のエルサレムと地のエルサレムが一緒になります。ユダヤ人の救い、心の癒し、そして、テロなどを神様が止めてくださいますように、という祈りが「エルサレムの平和の為に祈れ」という中に含まれるのです。「再臨の条件、二つのアブラハムの子孫」はこれで終わらせていただきます。主の再臨を待ち望みつつ、共にエルサレムの平和の為に祈り続けて参りましょう。■

